

北斗会が 100 周年記念式典を行う（剣道部）



歴史を重ねた北斗会が、発会から 100 年を数えた。北斗会とは剣道部の OB/OG 会である。

「北斗会」の由来に関して大変貴重な文章を見せて頂いた。引用が長くなるが、その一部を紹介したい。「東経大体育会の歩み」創刊号(昭和 42 年)に掲載されたもので、高商第 2 回卒業(大正 13 年)の川津與一郎さんの筆である。

…卒業の年の 3 月、同級部員の S 君が目出度く結婚されました。その祝賀会を部主催で催し、その席上私から部の卒業生の親睦と併せて在校の部員の激励を兼ねる親睦会を作ろうと提案、一同の賛同を得て名称を北斗会とし、初めてここに北斗会が呱呱の声をあげたのであります。北斗会という名称は特に格別の故事来歴のあるものではなく、北斗七星にちなんでここに結集団結を固くしようと選んだもので…

令和 6 年 11 月 16 日、国分寺キャンパス 100 周年



記念館にて「北斗会 100 周年記念稽古会」が行われた。

栗原正和
師範、昭和

員がこの稽古会に参加した。稽古が始まる前は、旧交を温め、和やかに談笑をする姿が多く見られたが、面を被れば表情は一変、どの顔も「現役」の顔である。在校部員と剣を交え、会員同士で剣を交える。稽古会は長時間に及んだが、晴れやかな表情が充実を物語る。

北斗会の特徴として、七段の有段者が多いことがあげられるそうだ。この段位はほんの僅かな一部を除けば実質の最高段位であり、指導的立場となる。実際に、地元に戻り指導者として活動している OB は少なくないという。また、長きに亘り一貫した指導をして頂いている栗原師範(8 段)の存在は、他大からも羨望の目を向けられるそうだ。



栗原正和師範

近年のさまざまな制約により、学生とのコミュニケーションの機会が作りづらいとの声も聴かれたが「会員の親睦と在校の部員の激励」という発会の思いは 100 年の時を経ても少しも変わらない。

稽古会の後には全員一堂に会し「記念祝賀会」で結束を高めた。

(記: 矢野剛仁)